

センター長挨拶



センター長
山内 章

農学国際教育協力研究センターは、農学領域の開発問題を実践的に解決する人づくり協力をリードする拠点となることを目指し、文部科学省のご指導により、1999年4月、名古屋大学に設立されました。

設立以来、農学分野の国際教育協力に関係する国内の大学や国際協力機関のみならず、海外の大学や組織・機関と連携し、開発途上国の農学系大学の教育研究能力強化、農業関係の国際協力プロジェクトの評価、開発途上国の農業・農村開発に関連する研究、開発途上国の農業研究者・技術者の人材育成、国内の国際協力関係者に対する研修、国内外からの研究者・専門家の受け入れ、全国の農学研究者や教員の人材データベースの構築とその活用によるネットワーク形成・コーディネート手法開発の研究等の分野で大きな成果を挙げてきました。

昨今の国内外情勢の中で、農業や食料が非常に高い社会的関心を集めています。国の政策としても、とくにアジア、アフリカに対する農業・農村開発に強くコミットすることを国内外に対して表明してきています。

またこれに対する大学の貢献として、国際教育協力における大学の「知」の貢献を求め、大学の国際教育協力事業への一層の参画のための基盤づくりの必要性が提言されています。また、その国際貢献においては、個人の努力に負う部分から、組織として対応することの重要性が認識されてきて、本センターが当初から掲げてきたミッションの実現が社会からますます強く要請されています。

そこで、そのために、当センターは農学知的支援ネットワークの構築を呼びかけ、現在本格的に活動を始めています。農学分野の多くの教員は、研究でも一流の成果を挙げ、優秀な学生を育て、そして国際協力の場面でも貢献したいと考えていますが、とくに、国際交流事業が、かつては個々の教員が個別に対応していましたが、大学という組織として取り組むようになってきてから、ますますこのネットワークの重要性が増してきています。このネットワークは、それを積極的に作って使っていくという強い意志があってこそ機能するものであります。

こうした課題認識を踏まえ、当センターは、このネットワークを通じ、今後、大学や国際協力機関など、国内外の様々な組織とさらに連携と協働を強め、農学分野における教育協力に関する拠点機能を格段に強化し、人材育成に大きく貢献したいと考えています。関係各位の積極的なご支援やセンターの活動に対するご参画をお願い申し上げます。